

資料6

教員採用試験における面接試験について

面接試験の対策と注意点

面接試験は、筆記試験では知ることのできない人物そのものについて、総合的に評価しようとするものである。面接官が質問を投げかけ、それに対して応答することで、教師としての資質能力を持っているかどうかを判断する。

面接試験で評価されること

面接試験では、様々な項目が評価対象となるが、以下その代表的なものを挙げておこう。

- ①人に接する際の基本的態度やマナー
挨拶や言葉遣い、表情や動作など、人前できちんとした振る舞いができるか。
- ②志望の動機、意欲や熱意
教職を志した動機、教職への熱意を持っているか。
- ③これまでの経験から学んだこと
自分の経験から何かを学び、アピールできるものを持っているか。
- ④教育の話題に関する基本的な知識、理解
質問の内容には、必ず学校教育に関するものがあるので、それについて知識を持っているか。
- ⑤与えられた質問を理解する力とそれに対する応答能力、表現力
質問の内容をよく理解しているか。質問に対して、自分の考えを導き出し、それを適切なことばで表現する力を持っているか。
- ⑥物事に対する考え方
教育活動を行うにあたって望ましい考え方をしているか。

面接試験とは

面接試験の対策として、まず心得ておかなければならないのは、試験対策を何日間か行えばうまくいくというものではない、ということである。面接官に面と向かいあえば、その場限りの態度はわかってしまう。そもそも面接官は、あれこれ質問することで、その場限りの態度ではないかということを見抜こうとしているのである。したがって、常日頃からの様々な人々に対する振る舞い方を整えておく必要があるだろう。また、志望の動機や教育に関する質問への応答についても、直前に文章を丸暗記したのか、あるいはしっかりと自分のものになっているのかは、面接官が聞けばすぐにわかる。このような自分の考えや意見を表現することについても、日々の努力が求められるのである。

それを踏まえた上で、必要とされる対策を具体的にいくつか示してみよう。

- ①年上の人と話したり、公的な場で自分の意見を述べる機会を積極的に活用し、丁寧で適切な接し方や発言が自然に出来るようにする。
- ②志望の動機について、学校生活や教育実習の体験と結びつけて教職への思いを述べる事が出来るようにしておく。
- ③自分自身の大学生活が有意義であったとアピールできるように、積極的にクラブ活動やボランティア活動などに参加する。

④学校教育に関する質問に関して、

- ア. 最近の教育政策や教育事情を知るために、文部科学省の重要な答申をよく読み、理解しておく。
これは、文部科学省のホームページにも掲載されている。
- イ. 最近の教育問題について、新聞を読んで教育関係の記事をスクラップしたり、教育に関する特集番組をチェックしたりする。
- ウ. 生徒の指導の仕方について、自分だったら具体的場面でどのように対処するかをイメージする。
このさい、法律で禁止されていること（たとえば体罰）や、答申や通達のなかで不適切だとされていることを知っておく。
- エ. 教育学の基本的な文献をよく読み、自分自身の意見を持つことができるようにする。
- オ. 複数人で教育の問題について自主的に討議を試みる。

⑤情報誌等で、自分が受験する都道府県や市の出題傾向を把握しておく。

最後に、面接における細かな注意点を挙げておく。

(1) 基本的な態度やマナーに気をつける

- ①服装・髪型は、第一印象を大きく左右する。第一印象は、その後の面接官の評価に大きく関係している。華美なものは避け、清潔感や誠実さが感じられるようにする。
- ②はっきりと明るい口調で挨拶をする。
- ③手は軽く握って膝の上に置く。足は投げ出したりしない。
- ④面接官に対して誠実に応答していることが分かるような視線のやり方を心がける。
キョロキョロしたり横目使いをしたりしない。
- ⑤舌を出す、頭をかく、肩をすくめる、貧乏揺すりなどの癖を出さないようにする。
- ⑥全体としてけだるそうな印象を与えないようにする。

(2) 応答に気をつける

- ①面接官の質問をよく聞いて答える。
- ②沈黙しない。質問が理解できないときは、その旨をはっきりと伝える。
- ③相手に伝わるように、思いやりを持って丁寧に最後まで話す。
- ④面接官や他の受験者の質問や話を途中で遮らない。
- ⑤自分の発言に自信を持つ。

(3) 言葉遣いに気をつける

- ①自分のことは「わたし、わたくし」と言う。
- ②語尾まではっきりと話す。末尾はもちろん「です、ます」である。
- ③身内には敬称を用いない。
- ④第三者には「～さん」を用いる。
- ⑤適切な敬語を使用する。

短い面接時間ではあるが、その中で、自分がどのような人間なのかを面接官に理解してもらえよう、自信を持って面接に臨んでほしい。